

### 国立国会図書館のアジア諸国に対する支援協力——IFLA/PACCアジア地域センター

那須雅熙

国立国会図書館は、一九八九年に国際図書館連盟資料保存コア活動（IFLA/PACC）アジア地域センター（以下、センター）に指定された。PACCの使命は、将来にわたって図書館資料や情報資源を保存するために、物理的、化学的劣化の問題に対する解決策を追求する努力を世界的に奨励し、促進することであり、すべての形態の図書館、文書館資料ができるだけ長期に利用可能な状態で保存されることを目指している。

現在、国際センター（フランス国立図書館）を中心に、世界各地二カ所に地域センターが設置されており、アジアにはセンターのほかにはオセアニア・東南アジア地域センター（オーストラリア国立図書館）及び中国地域センター（中国国家図書館）がある。センターの担当地域は、アジア全体（西アジア、中央アジアの一部及び中国を除く地域。東南アジアについてはオーストラリアと連携）に及んでいる。

PACCの目標は、政府関係者、一般の人々、図書館職員及び利用者の保存に対する意識を向上させること、図書館職員に保存

の理論と実践の教育をすること、利用者に保存の必要性和役割を知らせること、図書館職員には予防的保存の研修を、保存技術者には保存・修復の研修を奨励し、助成すること、資料の劣化原因、防止、処置のための科学的・技術的研究を奨励すること、図書館、文書館資料の製作、保存、処置に関する国内的、国際的基準の作成を促進すること、及び協力を通じて、国内的、国際的保存活動を奨励することである。

#### ●センターの役割・機能

センターに課せられた現在の機能・役割は、次のようなものであると言えよう。

- ① 保存情報サービス（保存関連情報の収集・管理・提供、レファレンス・サービス、保存問題に関する刊行物の作成・配付）
- ② 調査研究の奨励（保存科学、各種メディアの保存、製本・修復技術、アジア特有の保存問題）
- ③ 教育・研修活動（ワークショップ・セミナー・シンポジウム等の開催、研修事業）
- ④ 担当の得意分野における活動（紙資料

の保存分野での貢献）

#### ●センターの教育・研修活動

なかでもセンターが、これまでもしっかり力をいれてきたのは、アジア諸国への教育・研修活動である。指定を受けて以来、アジアからの研修生の受入は七カ国一地域（マレーシア、オーストラリア、タイ、スリランカ、インドネシア、韓国、台湾、ネパール）、アジア地域への講師派遣は九カ国（インドネシア、モンゴル、ミャンマー、インド、タイ、マレーシア、ベトナム、韓国、ネパール）にのぼる。

最近の事業は、ネパール国立図書館に対するものである。同館長の依頼に基づき、現地調査を行ったうえで、国際協力機構（JICA）の協力により二〇〇四年一月から一二月にかけて同館職員に資料保存を中心とした研修を行った。主な研修内容は、保存・修復方針の策定指導及び技術指導、国立図書館の役割・機能・活動について、ならびに公共図書館及び保存関係機関での研修や見学であった。また今回の研修が国立図書館だけでなく国全体に継承・定

着できるように、国際交流基金の助成を得てカトマンズのアサ古文書館で巻物型パームリーフの修復・電子化を行っている「アジア文化財保存修復会」が保存に関するセミナーを開いてくれるなど、現地の保存協力活動と連携し継続的支援を行っている。国際的な保存協力はこのように単発的なものでなく、現地でさまざまな支援協力活動と連携する総合的、計画的、継続的な活動が必要であると認識している。

### ●アジアIFLA/PACセンター ―長等会議

センターは、昨年二月七日に標記会議を開催するとともに、それに先立ち六日に「スマトラ沖地震・津波の被災に関する公開セミナー」を開催した。

図書館をとりまく環境の変化に伴い、アジアにおける資料保存について、これまでのニーズに加えて新たに様々な課題が生じている。また、PACも、地域の再組織化を図り活動を活性化するため、アジアでは中国地域センターに続いて、東南アジアまたは南アジアにも新たな地域センターを設置することが検討されている。会議では、そのような状況の中で新たな地域センターの設置に伴う役割分担、センター間の協力について議論するとともに、アジアの保存ニーズを明確にし、PACの今後のあり方について確認した。また、セミナーでは、被災国であるインドネシアとスリランカの

両国立図書館長から、被災状況をうかがい、防災意識を高めるとともに、PACの防災プログラムに協力する形で、今後、復興支援に関してどのような国際貢献ができるかについて考える機会とした。

アジアが今直面する共通の保存問題は、酸性紙問題、温湿度管理の不徹底、保存政策・計画・規則の不在、保存担当者不足・研修の必要性（最新の保存技術等）、近代的な保存設備の不整備、写本の重要性和写本の取り扱い方に関する知識不足、保存対策に要する資金不足等である。

このような問題に、各地域センターが的確に対応するためには、相互のコミュニケーションを強化する必要がある。

会議では、各センターが、ウェブサイトを通じて保存情報サービスを実施していく。また、各センター間で電子会議室を運営する。各センターで実施した研修事業については、相互に情報交換し、重複を避け、効果的な活動ができるようにする。パームリーフの保存や熱帯環境といったアジア固有の問題については、専門家や新たなセンターと連携して今後の対策について考えることとした。

災害対策（予防、対応、復旧）及び復興支援については、各センターは、国立図書館を中心に防災計画を整備するように働きかけ、計画の策定に向けて支援協力を行う。また、災害がおきた場合に、担当のセンターが速やかに通知を受けられる体制を構築

する。通知を受けた各センターは、被災した図書館に対して、適切な応急措置についての情報サービスを行う。また、国際センターや他のセンターに連絡し情報を共有することを約束した。

### ●センターの今後の主な活動

アジアの保存関係機関のダイレクトリーを整備するとともに、センターのホームページを通じて、保存情報サービスの提供を展開する。そのために、保存関連情報の収集に努め、保存に関する調査研究を進めていく。紙資料の保存については、センターが長年取り組んできたPH調査と中性紙普及活動を広報し、アジアにおける酸性紙問題の改善に寄与する。資料保存対策が必要な国や地域が保存ニーズを主体的に調査し、資料保存方針を定め、実行できるように、研修生の受入や職員派遣を通じて、それらの国や地域に対する支援協力活動を行っていくなど、センターは、今後も、広く国際協力関係機関との連携協力を推進することにより、広大かつ文化的に多様なアジアに対する保存協力活動を強化し、積極的に展開していく考えである。

（なす まさき／国立国会図書館収集部  
司書監・IFLA/PACアジア地域  
センター長）